

テーマ：患者がベッドサイドで安定して座れるイス

■ 背景

入院患者は1日中ベッドの上で過ごすわけではなく、各フロアにある談話室で家族・友人との面会や読書したりする他、ベッドサイドにある簡易な折りたたみイスに座っていることもある。

筋力低下や脊髄小脳変性症などが原因で体幹が不安定な患者、うつ状態のためぼんやりしていたり、注意力が低下した患者はイスに安定して座り続けることが難しい。手すりのないパイプイスでは過去に転倒事故が起きたことがある。その際には風呂場に置いてあった手すり付きのイスを代用していた事もある(右下図)。

入院患者には予期せぬところにリスクが潜在しているため、看護側はそれを先読みした手立てを講じる必要がある。例えば、キャスター付きのイスは部屋内/部屋間の移動には便利だが、上記の患者では座る際にイスが動いてしまうため座り損なう、あるいは体重をかけた際に後ろへ転倒する恐れがあるため薦めにくい。



■ 求められる要件・機能

- ・座面左右へのひじ掛けの配置(跳ね上げ式でロック出来るものが望ましい)
- ・脚底に滑り止めゴム
- ・体重をかけても前後左右に転倒しない安定な構造や強度
- ・体格に合わせて座面や背もたれの高さが調整出来る機能
- ・食べ物や飲料を溢してもふき取り容易な素材で出来ている事
- ・クッション性に優れる事(座り心地の良い事)
- ・軽量であること(運びやすい事)
- ・ベッドサイドスペースは広くないため、折り畳み機能があれば尚良い
- ・収納する際には複数の同じイスを重ねられる省スペース型なら尚良い

■ 市場性

厚労省の調査によると、1日当りの入院患者数は全国で約121万人と報告されている(令和2年)。そのうち70歳以上は80万人と2/3を占める。70歳以下の足腰が健常な患者の場合は簡易なパイプ椅子でも良いと思うが、高齢者が安全に利用できるイスには潜在的に大きな需要があると考えられる。

■ 看護部のホームページ

<http://sumsnurse.es.shiga-med.ac.jp/>